

支那における農業經濟の崩壊とその影響 (一)

堀 江 邑 一

滿洲事變、上海事件の勃發以來、支那に於ける反帝國主義運動乃至共產主義運動は、帝國主義諸國にとつて益々危険なる現實の問題となりつゝある。一般には、反帝國主義運動、特別には、反日運動は、最初軍閥の指喉によるものと云はれたが、事態の推移と共に、これらの運動が支那民衆自身の運動であり、諸軍閥や國民政府は寧ろ之を彈壓しつゝあるにも拘らず、これが鎮壓の効なきことが明瞭となりつゝある。すなはち、上海事件の勃發前、かの緊迫せる事態を前にして、本年一月二十二日、鹽澤司令官によつてなされたる聲明のうちには、この間の消息を窺ふに足るべき次の如き文句がある。『……不法なる排日貨運動を絶滅せしむるために必要な行動をとる機會が來たのである。この不法の團體に對し報復手段をとるに世界が何等反對するものではなく、廣く慣例上認められたものである。我等はむしろ支那の中央政府が微弱なるために、行はんとしてなし得ざる排日團體撲滅を支那政府のために代つてしてやり度いと思ふので、そのため平時における我海軍最大局限の最大活動を行はんとするのだ……。』(大阪朝日新聞本年一月二十三日)(傍點は引用者)愈々上海事件勃發し、南京政府が危機に直面し、洛陽移轉を決するや、政府の一要人は次の如く述べてゐる。『中央は中華民族生存のため最後まで戦ふ

決心をした。政府の移轉は國交の斷絶であり蔣介石の通電は宣戰の布告だ。中央は隱忍の出来る限りをつくしたのだ。日本が蔡廷楷をして上海事件を起さしめず、中央をして國難會議まで漕ぎつけさせれば、滿洲は日本のものとなつたのだ。會議は決して強硬論に行かず、自重論に落ちついたのだ。事今日となつては、支那の赤化と世界第二大戰あるのみだ。……〔大阪朝日新聞本年二月一日〕(傍點は引用者)更に上海事件の進行中、かの第九路軍の頑強なる抵抗のうちには、中國共產黨フラクションの活動の目覺しきものがあつたことは周知の事實であり、國民政府が對日軍事行動のために非常なる危地に陥りつゝあつた間に、江西、福建、湖南、湖北等の從來のソヴェト地域における中國共產黨の勢力は抜くべからざるほどに強化した由である。現に本年二月十四日の大阪朝日新聞に掲載された『陸軍當局の談』のうちには、次の如き一節がある。すなはち『中國共產黨は上海事件を契機として長江一帯の赤化策の素志を貫徹せんとしてゐる形勢あり、事件が悪化すればするほど彼等の工作は容易となり、第十九路軍を操從して抗日戰の擴大を策するのは、けだし當然である。現に數百名の黨員は第十九路軍中に潜入し、赤化宣傳をやつて居り、實に紅軍の集團は漢口を目指して武力宣傳に進發し、南昌を陥落してゐる。……』更に滿洲における謂ゆる兵匪の反抗なるものも、最初喧傳せられた如く、敗殘兵の一時的掠奪行爲に基くものではなく、尙一層民衆の間に基礎を置くところの反日運動、或は一般的に反帝國主義運動によるものなることは、最近同地方において跳梁しつゝある大刀會や紅槍會の活動並びに間島共產黨の活動によつて窺はるゝであらう。すなはち、事態の推移と共に、今回の事變の眞因が最近支那における共產主義運動乃至反帝國

主義運動の異常なる發展にあることは次第に明瞭となりつゝある。共產主義運動は先づ資本主義の最も發達し、爛熟したるところに起ることを原則とするにも拘らず、資本主義的に後進の支那において異常の發展をなすつゝあるのは、一方には世界資本主義の行詰りに基くものとして世界經濟的に説明さるべきことは勿論であるが、他方において、支那に對する帝國主義の壓迫と同國における農業經濟の崩壊とに基くものと云はなければならぬ。故に最近における支那の共產主義運動および反帝國主義運動を正しく理解するためには、支那の農業經濟の崩壊状態と農民運動の特性とを把握することが極めて肝要であると思ふ。茲に紹介するところのものは、朱新繁著『中國資本主義の發展』(一九二九年、上海聯合書店印行)の第四章「農業經濟の崩壊とその影響」の抄譯である。朱氏は詳細なる統計的基礎に立つて、支那の農業經濟の崩壊原因をば、帝國主義の侵入と封建軍閥の擄取とに歸し、しかも前者を以て主要なるものとなし、後者はその崩壊速度を促進せしむる動力となれる副次的のものとなしてゐる。彼はこの立場から、太平天國運動および義和團事變をも説明し、今日各地方における反軍閥的、反帝國主義的農民暴動を詳細に説明してゐる。けだし、今日の情勢下において顧みるに足るべき一文であると思ふ。尙これが譯出に當つては、植村福七君の助力に負ふこと大である。こゝに附記して謝意を表する。

一 帝國主義の侵入と農業經濟の崩壊

二 軍閥の擄取と農業經濟の崩壊

三 農業經濟の崩壊過程

(以上本號)

四 農業經濟の崩壊とその影響 (以上次號)

一 帝國主義の侵入と農業經濟の崩壊

周知の如く、帝國主義の中國への侵入は、一八四〇年鴉片戰爭以後の事であるが、實際に於ては帝國主義の勢力は十九世紀の初期において既に中國へ侵入してゐたのである。英人モース著「東印度會社の對支貿易史」に載せられてゐるところに依れば、一六八一年に英船四隻が中國に輸入した貨物の總額は四二・五九九磅に達した。一八一七年には單に廣東一省のみにて、鴉片の輸入價格は既に四百八十萬元に達し、輸出總額は年銀三百九十二萬元であつた。鴉片戰爭以前における中國と外國との貿易中最も主要なるものは阿片の輸入であつた。なほ、之は次の數字の如く年々増加してゐる。

年	度	輸 入 箱 數
一八一六	(嘉慶二十一年)	三、二一〇
一八二〇		四、七七〇
一八二五	(道光五年)	九、六二〇
一八三〇		一八、七五〇
一八三五		二三、六七〇
一八三六		二七、一一〇

支那における農業經濟の崩壊とその影響

巨額の鴉片の輸入の結果は、國內財源の國外流出を來し、社會經濟の動搖を惹き起した。一八三八年（清の道光十八年）清の鴻臚寺卿（宮中御宴等を司る清の役所の長官）黃爵滋の密輸入を嚴禁し、富國策を講ずべき上奏文中には次の一節がある。

「純帝の世のことを考ふるに、邊境の軍事費、帝王の巡幸費、宮殿の修築費等は如何にも大きかつたにも拘はらず、而も人民は上下共に富裕にして、極富と稱せられた。嘉慶以來も尙富裕にして、官吏より大商人に至るまで奢侈の風一般にみなぎり、現在と比較すれば雲泥の差があつた。まことに、愈々奢れば愈々富み、愈々儉なれば愈々畜なるか。ひそかに思ふに、近時銀價次第に騰貴し、銀一兩に對し制錢（戶部上部及び各省にて鑄造し各地方に行ふ小銅錢一譯者）一千六百と交易せらる。銀は内地に於て使用せらるゝのではなく、實際は外國に逃亡するのである。阿片が中國に輸入せられてより、わが賢明なる仁宗皇帝はその必らず有害なるべきを知られてゐた。思ふに例へば外國船の廣東に來るや、必らず先づ外國商人を取調べ、必らず阿片を携帯せざる事を誓約せしめた後、その船の入港を許した。阿片は最初貴族の子弟が服用するに過ぎず、習慣浮薄となるの故に、彼等はそのやむべき事を知つてゐた。……然るに近時この風習又一般的となり、外國人の阿片を携帯し來るもの漸次多くなり、特に貨物船を以て之を積み來り、廣東港内に入り來らずして港外の老萬山、大俱山等に停泊し、一方、廣東の奸商は海上監視兵と結托し、シヤンパンを以て銀を港外に運び出し、その代りに阿片を港内にもち込むのである。故に道光三年より十一年に至る間に、毎年銀の國外に流出するもの一千七八百萬兩、同十一年より十四年に至る間には銀一千萬兩、同十四

年より今日までは三千餘萬兩に上つてゐる。この外福建、浙江、山東、天津等の各港より入るものを合計すれば數千萬兩に及んでゐる。これ、中國内における有用なる財を以て、海外の千尋の谿底に投じ、無用の物と化するが如きものである。國家を害する憂、日一日、年一年、大となり、臣、その極るところを知らぬ状態である……」

鴉片戦争以前における帝國主義の侵略の程度が既にかくの如くであつたとすれば、鴉片戦争以後における状態は最早論するまでもないであらう。鴉片戦争以後、帝國主義の經濟的侵略は中國の農業經濟をして、極めて急速に崩壊せしめた。その主要原因の第一は、巨額の賠償金である。鴉片戦争より義和團の役に至る迄に、中國を壓迫して列國の支拂はしめた賠償金の主なるものは次の數種である。

戦争	賠償額 (單價兩)
鴉片戦争	一一、〇〇〇、〇〇〇
英佛聯合軍の役	一六、〇〇〇、〇〇〇
ロシアとの伊犁事件	九、〇〇〇、〇〇〇
日清戦役	二三、〇〇〇、〇〇〇
義和團事件	四五〇、〇〇〇、〇〇〇

第二の原因は、巨額の輸入超過である。……(年々の外國貿易の状態を見るに、一八六五年より今日に至るまで、一年として輸出超過を生じたことはなく、毎年莫大なる輸入超過をつゞけて來た。こゝにはこの間の貿易

支那における農業經濟の崩壊とその影響

統計の譯出を略す。……(譯者)

右の巨額の賠償金の支出が、實際には人民より取られた——農民より取られると云ひ得やう——ことは勿論であり、右の巨額の入超額も亦、直接間接に農民の搾取によりて支拂はるゝことは疑ひを容れない。

帝國主義の中國に對する經濟的侵略は、何れも農民の上に加へらるゝが故に、帝國主義勢力の中國への侵入以來、中國の自給自足的農業經濟は極めて急速に崩壊し始め、農民の破産失業するものは次第に増加し、その結果、極度の社會的混亂を造り出した。中國の近世史上に見らるゝ數多の原始的武装暴動、例へば太平天國運動、廣東順德の排英團の運動、義和團の運動等は、何れも直接帝國主義勢力の侵入後、農民經濟の崩壊によつて惹き起された農民暴動である。農業經濟崩壊のこの現象は、現在なほ益々發展しつゝある。次に掲ぐる數個の統計は、何れも農業經濟崩壊の情勢を證明するものである。

第一は荒地面積の年々増加することである。近年における荒地増加の趨勢は次表の如くである。

年 度	荒 地 面 積
一九一四	三五八、二三五、八六七畝
一九一五	四〇四、三六九、九四八
一九一六	三九〇、三六一、〇二一
一九一七	九二四、五八三、八九九
一九一八	八四八、九三五、七四八

荒地の増加は、決して一般人の想像するが如く、中國の荒地面積の過剰なるがためではなく、帝國主義の經濟的勢力の侵入後、農業經濟の破産による、農民の土地からの集團的遊離に基くものである。

第二は農産物の減少である。中國は一個の農業國であり、農業生産は國民經濟の基礎である。農業生産の減少の社會經濟に對する影響の如何に大なるかは、言はずと知れたことである。

米は主要生産物の一つである。一九一四年より一九一八年に至る迄の五ヶ年間における米産額の減少は次の如くである。

年 度	耕 作 面 積 (畝)	收 穫 高 (石)
一九一四	五七九、二二三、八六八	二、一三三、四八三、〇三九
一九一五	四〇六、一三六、三九九	二、〇九一、九五五、六六七
一九一六	(?) 二四七、一三八、七四六	五三八、八五二、五一五
一九一七	(?) 二三九、五七七、八八六	五二六、六四〇、七六三
一九一八	(?) 一八一、六七六、一九四	三〇二、二九六、九八六

産額の減少のため、その後輸出も亦著しく減少し、輸入は却つて増加してゐる。一九二〇年より一九二五年に至るまでの六ヶ年間の主要食料品の輸出は次の如くである。

この六ヶ年における主要食料品の輸入は次の如くである。(單位は前表に同じ)

年 度	米		麥		メリケン粉	
	量 目	價 格	量 目	價 格	量 目	價 格
一九二〇	一,一五三,〇〇〇	五,三三三,〇〇〇	五,〇〇〇	三〇,〇〇〇	五,二二〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
一九二一	一,〇六三,〇〇〇	四,三三三,〇〇〇	八,〇〇〇	三〇,〇〇〇	七,五五〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇
一九二二	一,九一五,〇〇〇	七,九八五,〇〇〇	八,七三三	三〇,〇〇〇	三,一〇〇,〇〇〇	一,六七五,〇〇〇
一九二三	三,三四二,〇〇〇	九,八二八,〇〇〇	二,五九五	九,〇〇〇	五,八二九,〇〇〇	二,七三三,〇〇〇
一九二四	一,三一九,〇〇〇	六,三四九,〇〇〇	五,一四五	一七,六〇〇	六,六五九,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇
一九二五	二,六三三,〇〇〇	九,一四〇,〇〇〇	七,〇〇〇	二二,五〇〇	二,八二二,〇〇〇	一,四九〇,〇〇〇

年 度	米		麥		メリケン粉	
	量 目(擔)	價格(海關兩)	量 目(擔)	價格(海關兩)	量 目(擔)	價格(海關兩)
一九二〇	三,一〇〇	一,〇〇九,〇〇〇	八,四三三	二五,三九五	三,九六一	一,八二五
一九二一	三,〇〇〇	一,三三三	五,一九四	一六,八六六	二,〇四七	九,三三六
一九二二	四,四〇〇	三,三三三	一,一五三	四,三三五	五,九三三	三,六三五
一九二三	四,〇〇〇	三,七三七	六,〇〇〇	二二,一七三	一,三三三	七,六三三
一九二四	四,〇〇〇	三,三三三	一,四〇〇	五,四一〇	一,五七〇	七,四〇〇
一九二五	三,三三三	三,三三三	二,〇七〇	八,三五〇	二,八八〇	一,〇〇〇

農業を以て經濟の基礎となす中國が、主要食料品をすら外國から仰がねばならぬほどである。之によつて、農業經濟の衰頹の状態を想像する事が出来るであらう。その他の主要物産の減少も亦毎年益々甚だしくなりつゝある。(即ち著者は、中國における主要農産物であり、對外貿易に於て最も主要なる地位を占めてゐる生糸及び茶について、その生産量並びに輸出量が年々減少してゐることを詳細な統計を掲げて論證してゐるが、あまりに繁雜なるが故に茲には省略する。……譯者)

第三の現象は農業人口の減少である。この際残念ながら吾々は正確なる統計を以て證明することを得ない。だが、この事はたゞ年々都市人口の集中の趨勢及び失業者數の増加を以てしても、容易に知り得らるゝことである。

二 軍閥の搾取と農業經濟の崩壊

農業經濟崩壊の主要原因は、勿論帝國主義の侵略であり、この崩壊の速度を促進しつゝあるものは、封建軍閥の搾取である。長年の絶えざる内亂、種々の苛酷なる租税による搾取等、これらは總て農業經濟の崩壊を促進せしめる主要原因である。

民國以來、殆んど一年として内亂の絶えた年はない。そのうち最も有名なものは安直戰爭、前後二回の奉直戰

争、前後二回の江浙戦争、川湘(四川と湖南)戦争、湘鄂(湖南と湖北)戦争、反奉戦争、國直戦争等である。國民黨の北伐以後も幾度か北伐西征が行はれ、廣西軍、唐生智軍の討伐等、騒然として一日も安らかな日はなかつた程である。戦争の起る度に軍費を徴収するため、重ね／＼農民を搾取したのみならず、人夫を募集し、家畜を徴發し、耕地を蹂躪し、農業經營を完全に停止せしめ、これを完全に荒廢せしめた。兵變、燒拂ひ、圍城、屠殺等は日常茶飯事であつた。

租税の繁雜な事は、財政當局でさへもその項目をすら知らぬほどである。これら重ね／＼の搾取に止まらず、尙多數の地方駐屯軍は鴉片栽培を強制したが、これは農地を破壊し、農村の荒廢を促進せしめた最も恐ろしき魔鬼であつた。現在鴉片栽培區域の廣さは驚くべきほどである。四川、雲南、貴州等が有名なる鴉片栽培區域であることは云ふまでもない。たゞ一地方について見ても、人をして驚かしめるに足るものがある。一九二七年春、吾々の河南における調査の結果と「拒毒會」の統計とに基いて計算すれば、河南の一〇八縣中六三縣が鴉片を栽培してゐる。西部河南の各縣は更に當局の規則により、百畝の土地につき、少くとも三十畝には鴉片を栽培せしめられてゐる。この當時の西部河南の駐屯軍、岳維竣、張萬信等は、殆んど全く鴉片税のみを以てその軍隊を養つてゐたほどである。「拒毒會」の統計によれば、次の四縣の鴉片栽培の畝數は次の如くである。

縣名		面積 (畝)
永城縣		一〇、〇〇〇
洛陽縣		一、〇〇〇
項城縣		一、〇〇〇
洛寧縣		一、〇、〇〇〇

陝西省も亦官廳によつて鴉片の栽培を統制してゐる。即ち縣の大小に従ひ、各縣、八百畝から二千畝までの栽培を規定してゐる。甘肅省の産額の莫大なることは更に驚くべきほどである。「拒毒會」の報告によれば、鴉片の産額は、殆んど農産物總額の九〇%を占めてゐる。全省の四分の三の土地には、鴉片が栽培されてゐる。現在西北當局では栽培を嚴禁してゐることであるが、それが所謂お役人一流の出鱈目でないと保證し得るものがあるか？

浙江省は栽培禁止の最も嚴しい地方だと言はれてゐるが、しかも産額は決して少くない。「拒毒會」の報告によれば、一九二七年鴉片栽培區域として知られてゐるものは台州八千畝、永嘉二千畝、臨海六百畝である。又「拒毒會」の調査月報によれば、奉天省も亦各縣の栽培高を規定してゐる。即ち上等縣は三萬畝、中等縣は二萬畝、下等縣は一萬畝と計上されてゐる。だが實際にはこの數にとゞまらない。奉天全省五十六縣のうちにて、栽培地はほど二百萬畝である。一九二八年五月、安徽省北部罌粟苗検査會長、袁體明は合肥(地名)に各區の會議を召

集し、本年度合肥における栽培鴉片に對する財政部の注文は、少くとも十二萬畝であると報告してゐる。「拒毒會」の調査月報によれば、安徽省北部の鴉片栽培の狀況は次の如くである。

縣名	面積(畝)	縣名	面積(畝)
合肥	六二、〇〇〇	阜陽	六二、〇〇〇
亳縣	五〇、〇〇〇	宿縣	五〇、〇〇〇
渦陽	三七、〇〇〇	太和	二五、〇〇〇
蒙城	一二、〇〇〇	穎上	一二、〇〇〇
霍邱	三、〇〇〇	壽縣	三、〇〇〇
泗縣	八、〇〇〇	鳳台	三、〇〇〇
靈璧	六、〇〇〇	鳳陽	五、〇〇〇
五河	一〇、〇〇〇	懷遠	二、〇〇〇

四川省における鴉片栽培の狀態をば或る文學者の描寫したもの、中に次の如き一節がある。

『本年は二十六縣、何れも皆大飢饉に遭遇した。陳親方の言ふところによれば、その第一原因は阿片栽培地方が多過ぎたことである。阿片の栽培は勿論營利事業であるから、從來官廳はその栽培を許さず、栽培してゐる者を發見すれば、收穫期に至つて之を徵收し去つたほどである。しかも尙多くの人はひそかにこれを栽培してゐたものである。況んや最近七八年來は、官廳自らその栽培を許すのみならず、尙駐屯軍は人を派してその栽培を獎勵

したのである。即ち「お前は阿片栽培の元手を持つてゐないのか？ お前が持つてゐなければ、自分が持つてゐるから利用したがいい。後で十倍にして返してくれ、ばい」のだ。お前は他人から妨害される事を恐れなくてもいい。もし必要とあれば自分は軍隊を以てお前を保障してやらう。あんな犬の様なもの、言ふことには構はず、自分の云ふことに従へよ」と。こんな有様であり、何人とても金儲けを望まないものはないのだから、誰も彼もが一樣に大急ぎで土地を耕し、普通の農産物の代りに阿片を栽培し、大いに儲けやうと思つたのである。ところが、圖らずも幾年間かの栽培の後漸く、そんな夢のやうな好い事は決してあるものではない事がわかつた。即ち第一に播種期には第一回の税金をとられ、第二に、植付期には又謂ゆる「窩捐」といふ税金をとられる。即ち罌粟一株毎に税金を課せられ、少しもごまかす事を許されない。第三に、收穫期には又税金が課せられる。第四には市場に運送される時保険料をとられ、第五、第六と、この外にも若干の錢を出さねばならぬ時がある。しかも多くの阿片を栽培して、大勢の者が何れも金儲けをしやうと思つてゐたのに、阿片の價格が暴落したために、一年の間刻苦精勵して土地を耕した事は全く骨折損の草臥れ儲けとなつてしまつた。では最早再び栽培しないでもよいかといふに、さうはゆかない。地方の役人や駐屯軍は告知を出して傲然として言ふのである。阿片を栽培せんと欲する者は速かに税金を納入せよ、栽培する事を欲しない者からは、規則通りに税金を、例へば第一次の「懶惰税」を徴収するぞと。「あゝ！ これでは一綱打盡だ！ 反對！ 反對！」と多くの人民は反對して立つた。だが反對したとて全く無駄な事である。城内の紳士らも承知してゐるのだ。即ち「軍隊の糧食の供給は緊要であり、

それがためには人民は苦痛を忍ばねばならぬ」と。各郷の區長らも亦承知してゐるのだ。即ち「吾々に何の力があつて軍隊に抵抗出來やうぞ。まして各郷何れも税金を納めて阿片を栽培してゐるのだ。もし吾々一地方のみが他の地方と特別に異つてゐるとすれば、——お前達考へても見よ——凡ての人民が皆一樣に幾畝かづゝを栽培したゞ幾千圓もの重い税金をやめて貰ふに若くはないではないか。さうすれば、あの懶惰税などの免除も希望することが出來やう。まして人民達も亦、結局いくらかの元手を回收する事が出來るだらう。この方がもともと合理的だよ。お前達も一樣に何畝かの阿片を栽培せよ。自分も同じく幾畝かを栽培しやう」と。かくの如くして自然に阿片栽培地方が普遍化し、幾年か經過する間に次第に多くなつたのである。』(東方雜誌第二十四卷第三號第八八頁參照)

これは一篇の文學的描寫であるが、實際の情況も亦確かにかうであつたのである。反動的軍閥官僚は農民を強迫した。これに對して農民は如何なる手段方法をとつたであらうか？。

軍閥政治の下に於ては、土豪劣紳の專横はたゞに飽くなき搾取に止まらず、尙また勝手氣儘に人を殺しさへもしたのである。この事も亦、直接に農民を驅つて集團的に土地より遊離せしめ、農業經濟の崩壊を急速ならしめたものである。湖南、廣東等に於ては、この種の現象は一般的であつた。

以上觀察した如く、農業經濟の崩壊には二つの原因がある。その第一は帝國主義の侵略であり、その第二は封建政治的搾取である。だが實際は主要なものやはり前者であつて、後者はたゞその崩壊速度を促進せしめた一種の動力にすぎない。のみならず、封建政治的搾取と帝國主義との間には密接な關係がある。——更に一層具體

的にいへば、中國の封建軍閥の存在は帝國主義に依存して居り、軍閥相互間の内亂は、帝國主義間の利害の衝突の表現である。故に吾々が農業經濟崩壊の原因を追求するならば、それは當然帝國主義の侵略であると云ふことが出来る。

三 農業經濟の崩壊過程

帝國主義の經濟的侵略は、農業經濟を破壊し始めると同時に、農村のうちに一種の特殊階級を形成した。それは即ち「地主買辦階級」である。この階級の利益は、帝國主義の商品侵略に依存してゐる。従つてこの階級は、帝國主義の農村侵略の掠奪的ブローカーである。帝國主義の農村に對する原料搾取及び商品販賣は、すべてこの階級の手を經る必要があつた。故にこの階級の勢力は、帝國主義の侵略の發展に従つて發展したのである。帝國主義の經濟的侵略の過程に於て、一面には農業經濟の破産と農民の土地よりの集團的遊離と、他面には地主買辦階級勢力の發展とに伴ひ、土地所有は益々集中化した。故に、吾々は農業經濟の崩壊といふのは、中小農民の破産であり、決して農業全體の没落ではない、ことを知らねばならぬ。

帝國主義の經濟的侵略が日一日と發展するや、農業經濟の崩壊も亦日一日と激甚となり、破産失業農民も亦日一日と増加した。社會はこれらの集團的失業農民を受け入れる事を得ない。——西歐の資本主義的先進國家に於ては、農業經濟の衰頹は他面に於ては工業の發達であるが故に、農民は土地から遊離しても直ちに都市の工場に

集中する事が出来た。之に反して中國に於ては、一方には農業經濟が崩壊するにも拘はらず、他方、都市工業も亦發展不能の状態にあるのである。故に失業農民は「歸るに家なき農民」となり、かくて農民暴動は勃發し始めたのである。

農民暴動は、最初地方の租税反對の形式を以て出現し、漸次地方的暴動となり、都市に集つて一個の全體的暴動となつたのである。——又日常の經濟的闘争より進んで巨大なる政治闘争と化したのである。けだし、最近幾十年來の中國は、農業經濟崩壊の過程にあつたからである。鴉片戰爭以後、農民暴動は普遍的に發展し始めた。これは極めて明白なことである。けだし、鴉片戰爭以後帝國主義の勢力が大舉して中國に侵入し、農業經濟を破壊し始めたからである。

最初は廣東の西江一帯において、一個の貧弱な局部的暴動として現はれはじめた。これらの暴動の最初の形式は何れも租税反對運動であり、高々一、二人の縣知事を虐殺したに過ぎず、決して何等の政治的目標をも有するものではなかつた。然るに、農業經濟崩壊の形勢は日一日と激甚となり、従つてこれらの貧弱なる暴動も漸次發展して遂にかの偉大なる大平天國運動を形成するに至つたものである。

この際吾々の注意に値するものは、何故にこの騒動が廣東省において始つたか？ といふことである。それは實際極めて容易に知り得ることである。即ち廣東は對外貿易の最も早く發達した地方であり、帝國主義の侵略を受ける事も最も甚だしく、農村の破産状態も亦最も激しかつたからである。

鴉片戦争は一八〇四年であり、太平天國運動の開始は一八五〇年である。このことは、太平天國運動が、帝國主義勢力の侵入によつて惹き起された農業經濟の崩壞の産物であることの、好個の證明である。

太平天國運動は、農民の自然發生的原始暴動である。けだし、これらの破産失業農民は、飢寒に迫られて自然的に暴動化したものである。太平天國運動は、表面上政權争奪運動の如くであるが、その實、政權争奪は一種の表面的現象にすぎない。この運動の中心目標は土地問題の解決である。既に述べた如く、帝國主義勢力の侵入後、一面に於ては農民が集團的に土地から遊離すると共に、他面に於ては土地集中の傾向が急速に進展した。失業農民の要求するものは、土地である。故に土地問題の解決は即ち太平天國運動の中心目標だったのである。これは、決して吾々の想像のみではなく、事實がさうだったのである。即ち事實をあげて證明すれば、太平天國運動の通過せし地方に於ては、最初は随時に土地を沒收し、且つ一種の原始的分配方法を用ひ、共產主義的に土地を農民に分配したのである。その後又「天朝田畝制度」が公布されたが、この制度は太平天國運動を研究するための最も重要な文献であり、吾々の注意すべきものである。こゝにその原文の摘要を抄録すれば次の如くである。

『凡そ一軍は、土地臺帳二、刑法典二、金錢穀物原簿二、收入原簿二、支出原簿二、(正副各一冊づゝ)を備へ置き、師帥は旅帥を兼攝する。その任に當る者はその事務を掌り、その事務に當らざる者も亦、その事務を助く。凡そ一軍の一切の生死黜陟を行ふには、軍師は監軍に申請し、監軍は欽命總制に申請し、更に欽命總制は將軍、侍衛、指揮、檢點、丞相に申請す。丞相は軍師に傳達し、軍師は天王に奏し、天王は旨を降し、軍師はこれを遵

行す。功臣は代々天祿を受く。その後歸順するものは、毎年各家一人づゝ伍卒となす。事あれば、すなはち首領之を率ひて兵となし、敵を殺し、賊を捕ふ。事なければ、すなはち首領これを督勵して農をなし、田を耕して、上に奉る。

凡そ田はこれを九等に分ち、その田一畝につき春秋二季に一千二百斤をあげ得べきものを上上田、一千斤をあげ得べきものを上中田、一千斤をあげ得べきものを上下田、九百斤をあげ得べきものを中上田、八百斤をあげ得べきものを中中田、七百斤をあげ得べきものを中下田、六百斤をあげ得べきものを下上田、五百斤をあげ得べきものを下中田、四百斤をあげ得べきものを下下田となす。上上田一畝は上中田の一畝一分、上下田の一畝二分の三畝に當る。凡そ田は人口に照し、男女の別なく、家族數の多寡に従つて分たる。人多ければその分前も多く、人少なければその分前も少くなる。その分配に於ては、混へるに九等の田を以てす。即ち例へば一家六人なれば三人に美田を、他の三人に醜田を分たる。美醜各々半ばとす。凡そ天下の人の同じく耕すところにして、此處不足なれば彼處に移し、彼處不足なれば此處に移す。凡そ天下の田は豊凶相通じ、此處凶なれば、彼の豊地より移してこの凶處を賑はし、彼處凶なれば、この豊地より移してかの凶地を賑はす。努めて、天下をして共に天父、上主、上帝の大福を享けしむ。田あれば等しく耕し、飯あれば等しく食ひ、衣あれば同じく着、錢あれば同じく使ふ。一として均衡ならざる處なく、人として飽暖ならざる者なし。凡そ男女は十六歳以上は何れも田を受け、

十五歳以下はその半ばを受く、もし十六歳以上のもの上上田一畝を受くれば、十五歳以下のものはその半分を減じて上上田五分を分け與へられる。又もし十六歳以上のもの下下田三畝を受くれば、十五歳以下のものはその半分を減じて下下田一畝五分を分け與へられる。凡そ天下到る處、その宅地内に桑を植へしむ、凡そ婦女をして蠶を飼ひ、糸をつむぎ、衣を縫はしむ。凡そ天下各家をして雌五羽、雌雉子二羽を飼はしめ、繁殖せしむ。凡そ收穫期には、兩司馬、伍長は共に二十五戸につき、各人の食料と採種用穀物とを除き、餘りあれば即ち國庫に歸せしむ。凡そ麥、豆、苧麻、布、鶏、犬、其他のもの及び金錢も亦同様である。けだし、天下何れも皆、天父、上主、皇上帝の大家族だからである。天下の人、一人として私物を受けず、物はすべて上主に歸し、上主は之を運用し、天下の人民は到る處平均化し、人々は飽暖である。これ即ち天父、上主、皇上帝が特に太平の眞主に命じて世を救はしむるの意である。たゞし兩司馬は、その金錢、穀物の數量を記録しおき、その數を金錢穀物原簿及び收入支出原簿に轉記す。凡そ二十五戸のうちに、國庫一、禮拜堂一、を設立し、これに兩司馬が住居す。凡そ二十五戸のうちに結婚出産等の慶事あれば、何れも國庫より支出す。たゞし一定の制限ありて、一錢と雖も多く用ふることを得ず。もし一家に結婚出産等あれば、錢一千と穀物一百斤を給し、天下を通じて一樣である。すべて物を用ふるには節約を旨とし、以て兵亂に備ふ。凡そ天下の婚姻には貧富の別を設けず。凡そ二十五戸のうちには陶冶、木石等の職ありて、伍長及び伍卒をして農閑期にこれに従事せしむ。凡そ兩司馬は、その二十五戸内の結婚等の慶事を掌り、すべてを天父、上主、皇上帝に祭告す。舊時代の一切の惡例を打破し、二十五戸のう

ちの兒童は總て毎日禮拜堂に到り、兩司馬は舊約聖書、新約聖書および勅語を教授する。日曜日には伍長は各々男女を率ひて禮拜堂に到り、男女を區別して道理を講聽し、天父、上主、皇上帝を讚美祭奠する。凡そ二十五戸のうち農を勵むものは賞せられ、農を怠るものは罰せらる。もし各家に訴訟あれば、双方共に兩司馬に赴き、兩司馬はその曲直を聞く。もし治まらざれば、即ち彼は双方を伴ひ卒長の許に赴き、卒長その曲直を聞く。尙治まらざれば、即ち卒長はそのことを旅帥、師帥、典執法及び軍帥に上申する。軍帥は典執法と會合してこれを判斷する。既に判決書作成さるれば、軍帥は又必らずその事を監軍に上申し、監軍は次に總制、將軍、侍衛、指揮、檢點及び丞相に上申する。丞相は軍帥に稟し、軍帥は天皇に奏し、天皇は旨を降し、軍帥、丞相、檢點及び典執法等に命じて直ちに天皇の主斷を仰がしむ。天王はすなはち旨を降して主斷す。生殺與奪は軍帥の旨に遵ひて處決する。凡そ天下の官民はすべて十誠を遵守し、又命令に遵ひ、盡忠報國の者は忠となし、卑より高に墜し、代々その官につかしむ。官吏にして十誠にそむく者及び命令に逆ひ、賄賂を受け、貨幣を私消する者はすなはち奸となし、高より至卑に貶し、農民となす。十誠及び命令をよく守り、農に勵む者は賢となし、良となし、或は之を推舉し、或はこれを賞す。十誠及び命令に叛き、農を怠る者は惡となし、頑となし、或は誅し或は罰す。凡そ天下毎年一回官吏の缺員を補ふ。人を推舉してその人を得れば、推薦者も賞を受け、人を推舉してその人を得ざれば推薦者も亦罰を受く。その伍卒にしてよく十誠及び命令を遵守し、農を勵む者あれば、兩司馬は行績を列舉してその姓名並びに推薦者の氏名を卒長に上申す。卒長はその人の百戸の中にて詳細に調査し、もし果して事實なれば、

すなはちその人及びその推薦者の氏名を旅帥に上申す。旅帥はその人をその五百戸のうちにて詳細に調査し、もし果して事實なれば、すなはちその人及びその推薦者の氏名を師帥に上申す。師帥は又その人をその二千五百戸のうちにて詳細に調査し、もし果して事實なれば、すなはちその人とその推薦者の氏名を軍帥に上申す。軍帥はその人をその全軍のうちにて詳細に調査し、もし果して事實なれば、すなはちその人と推薦者の氏名を監軍に上申す。監軍は總制に上申し、總制は次に將軍、侍衛、指揮、檢點、丞相に上申す。丞相は軍帥に稟し、軍帥は天皇に奏し、天皇は旨を降し、天下各軍の推學者を調査し、これを或は旗、或は師帥、或は旅帥、或は卒長、兩司馬、伍長等に選任す。凡そ濫りに人を推舉する者は却けて農民となす。凡そ、天下の諸官吏は三年に一度昇進、貶下され、天朝の令を以て公布さる。……』

この「天朝田畝制度」の主要意義は、すなはち「田あれば等しく耕し、飯あれば等しく食ふ」「各人はその能するところを盡し、その需むるところを受く」といふことである。

太平天國運動は、封建的神秘的色彩を帯びてゐるとは云へ、客觀的には反帝國主義、反封建勢力的運動である。これらの神秘的、封建的色彩は、もと／＼原始的暴動の本質である。一種の大衆運動の發生は、何れもかゝる原始的形式を有するものである。

太平天國運動以後も、依然として各處に小暴動が普遍的に發展し、遂に一九〇〇年に至り、かの偉大なる義和團運動として爆發したのである。

義和團運動も亦太平天國運動と同様に、一種の農民の原始的暴動であり、やはり破産失業農民が生計に迫られて、自然發生的に爆發した一種の運動である。一見すれば、義和團運動と太平天國運動とは、完全に相違せる二つのもの、様である。けだし太平天國運動は清朝に反對するものであるに反し、義和團運動は「扶清滅洋」だからである。だが、實際上は兩者共に反帝國主義、反封建勢力的運動である。けだし、兩者共に原始的武裝暴動なるが故に明確なる旗幟を有せず、太平天國運動は清朝に反對し、その運動の領袖はすべて帝位を争ひ、天下を奪はんとしたとは云へ、客觀的には一種の反封建勢力的運動である。この事は、なかんづく無條件的に土地を沒收し、これを原始的方法によつて農民の間に分配した一點に、特に明白に現はれてゐる。

太平天國運動の領袖は對外親善を聲明してゐるとは云へ、客觀的に見れば、この運動も亦反帝國主義的運動である。前述の如く、太平天國運動の本質は、帝國主義の經濟的侵略によつて惹き起された破産失業農民の暴動である。この事は、太平天國運動の性質が疑ひもなく反帝國主義的であることを、よく證明し得るものである。義和團運動の反帝國主義的性質が、太平天國運動に比較して更に一層明確であることは勿論である。後者にあつては、公然と掲げられた「排外的」(反帝國主義的)スローガンがなかつたに對し、前者にあつて之が主要目標となつてゐた。

たゞ義和團は「扶清滅洋」を欲したために、多くの人は決して義和團運動が反封建勢力的運動ではない、と思つてゐる。だが、この種の觀察は確かに正しくない、義和團の「扶清」を欲するの所以は、これ「滅洋」のため

であり、決して清朝に忠ならんがためではない。即ち次の一事實即ち義和團の勢力を占めた地域に於ては、封建的官僚地主が何れも甚だしき壓迫をうけた事を舉ぐれば、この運動が反封建勢力的であつた事を證明し得るであらう。

今や次の如き問題が生ずる。即ち、義和團と太平天國運動とが、既に同様に反帝國主義的、反封建勢力的運動だとすれば、何故に二つの異なる、否完全に相反する——即ち前者は「扶清洋滅」なるに反し後者は「親洋滅清」である——形式を以て現はれたのであるか？ といふことである。だがこの事も亦、極めて容易に理解され得るであらう。

太平天國運動の爆發は、帝國主義の經濟的侵略によつて惹き起されたものだと云へ、當時の民衆の意識がまだ極めて漠然たるものであつたのと、他面、帝國主義の罪惡も亦義和團運動當時程に顯著ではなく、農民は破産失業の危険を感じながらも、彼等はそれが帝國主義の經濟的侵略に基くものである事を知らず、たゞ清朝政府の重ね〜の搾取のみを見た——即ち當時清朝政府は巨額の賠償金支拂の必要から、人民に對する搾取を加重せざるを得なかつたのである——が爲に自然に目を清朝政府に向けたのである。この運動の領袖が對外親善を表明したのは、全く一種の策略に過ぎず、運動そのもの、反帝國主義的性質を稀薄ならしめるものでは決してない。帝國主義自身は極めてよく太平天國運動の發展が、彼らの中國における利益に反する事を知つてゐたから運動の領袖が極力對外親善を表明したにも拘はらず、帝國主義は直接武力を用ひてこの運動の發展を妨害したのである。

殊に上海方面における外國軍艦からの襲撃による太平天國軍の損害は非常に大なるものであつた。なほその後、太平天國軍討伐の曾國藩の部隊の中には正式の外國軍隊が現はれたほどである。

これに反して、義和團運動の時には、帝國主義の罪惡は既に一般人の痛恨する所となつてゐた。——即ち民間に於ても一様に洋鬼子(外國人)の罪惡を深く憎まぬ者はないほどであつた。しかも宣教師が帝國主義の勢力に頼り、地方にあつて人民を欺瞞したことは、更に人民をして切齒扼腕、憤慨せしめたものである。故に義和團運動は宣教師を虐殺し、教會堂を燒拂ふ等、原始暴動の形式をとつて勃發したのである。義和團が「扶清」を標榜した所以は、たゞ清朝の一種の政治的勢力を利用せんとしたのに過ぎない。——即ち原始的運動にあつては、何が利用し得べきであるかを知らなかつたのは勿論であるが、たゞ客觀的に見れば、大衆が清朝の政治的勢力を利用して、帝國主義に反對せんとしたのに過ぎない。

封建的勢力は、現實に於ては完全に帝國主義の用具となつた。だがその當時に於ては、彼らも尙帝國主義の壓迫を受けて居り、依然として機會だにあれば奮起して報復せんと欲してゐたのである。義和團運動に於て、清朝政府が依然として大衆の味方となつてゐたのは、これに基くものである。義和團運動以後、各地に於て小暴動が絶へず勃發してゐた。ただし、農業經濟は絶へざる崩壞の過程中であつたが故に、農民暴動も亦永く停止し得なかつたからである。(未完)